

メディカル テラス

妊娠しないのですが 不妊症でしょうか

33歳女性です。妊娠を希望しているのですが、なかなか妊娠しません。不妊症でしょうか。

回答者

山梨大付属病院産婦人科
笠井 剛医師



かさい・つよしさん 山梨大医学部産婦人科学教室准教授。生殖医療センター長。1987年山梨医科大学卒。2010年2月より現職。日本産婦人科学会専門医。日本生殖医学会生殖医療指導医。

か。健康な男女の場合、妊娠する確率は30%といわれています。30代後半になると妊娠率が急激に落ちます。

「不妊症とはどんな状態をいうのですか。」

日本産科婦人科学会は「生殖年齢の男女が妊娠を希望し、ある一定期間、性生活を行っているにもかかわらず、妊娠の成立をみない場合を不妊という」としています。一定期間というのは、2年というのが一般的とされていますが、年齢などを踏まえ、希望しているのに妊娠できていないのであればこの期間にこだわらずに早めの受診をお勧めします。

害②卵管障害③精子の異常―の三つが挙げられます。排卵障害は基礎体温をつけて排卵があるかどうかを調べ、卵管障害は卵管の造影検査を行い、詰まっているかどうかを診ます。精子の異常については、精液を採取し濃度や運動率などを調べます。精子の状態には変動があるため、1回だけでなく何回か検査をすることを

が一般的ですが、不妊治療においては、排卵誘発や、卵管を通るようにするなど「原因に対する治療」を行う一方で、「妊娠率を上げる治療」もあります。具体的には、排卵の時期に合わせて性交渉のタイミングを指導する「タイミング指導」、排卵のタイミングに合わせて元気な精子を送り込む「人工授精」、卵子と精

による妊娠の確率も同様で、日本全国の2007年の不妊治療(体外受精)の成績をみると、36歳までに治療を始めて妊娠する率は20%30%、実際に赤ちゃんを家に連れて帰れる率(生産率)は10%20%ですが、37歳を過ぎると急激に低下していることが分かります。

「日ごろの生活習慣で気を付けることはありますか。」

「不妊の原因を教えてください。」

大きく分けて①排卵障

状況により段階的治療 喫煙は妊娠能力落とす

お勧めします。

男女別では、男性40%、女性40%、両方20%に不妊の原因がある

とされています。男性の中には、精子を調べる

ることなどに抵抗感を抱く人もいるかもしれ

ませんが、妊娠は夫婦が協力しないとできま

せん。男性も早めに検査を受けてください。

―治療法は。

病気を治す場合、その原因を究明し、原因に対する治療を行うの

子を体外に取り出し、培養液中で受精させて子宮に移植する「体外受精」があります。

―治療はどのように進めるのですか。

タイミング指導から人工授精、体外受精へと治療をステップアップするの

のが一般的です。一つのステップは半年間(6周期)行います。い

ずれませんが、妊娠する能力を保つためには早期にたばこをやめることを

すすめ、周期が進むにつれて妊娠率が低くなります。年齢や不妊原因によつては周期を短くして早めにステップアップしたり、体外受精を先に

行ったりする場合もあります。―妊娠する確率はどのくらいです

になることがあるため、感染を予防することが大切になります。

喫煙も大いに関係があります。喫煙女性は非喫煙女性に比べて妊娠しにくく、閉経も3年早いといわれて

います。さらには子宮外妊娠のリスクも高まります。喫煙者の中には「妊娠したらたばこをやめる」という人

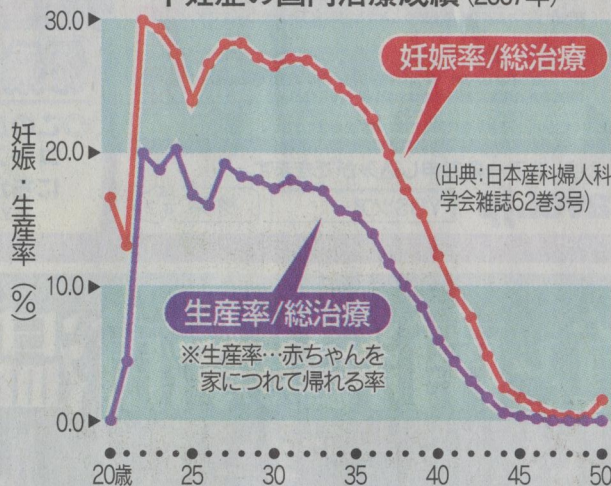
もいますが、妊娠する能力を保つためには早期にたばこをやめることを

お勧めします。また、子宮がん検診やHPV(ヒト・パピローマ・ウイルス)ワクチンを受けるなど、子宮

がんを予防することも重要になります。

―第1、3木曜日に掲載します

不妊症の国内治療成績(2007年)



妊娠・生産率 (%)

20歳 25 30 35 40 45 50